

発達障がいのある児童生徒の 協調運動に対する適切な支援の在り方について

目的

適切な支援を行うことにより、発達障がいのある児童生徒の協調運動能力と運動への意欲を高める。

R君 小学校第5学年

協調運動を高める支援

意欲を高める支援

実践

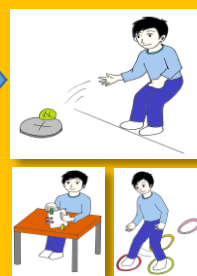
家庭において、毎日、練習課題の全ての項目（一つの項目について3分程度）に取り組む。

	手先の器用さ	ボールスキル	バランス
指標課題	はさみ	キャッチボール	片足立ち

練習課題	・洗濯ばさみ ・あやとり	・ボールキャッチ ・的入れ	・クロス歩き ・ケンケンパ
------	-----------------	------------------	------------------

- 練習課題については、**指標課題の運動の要素に関連**しており、**家庭で実施可能な運動**を設定した。
- 対象児童の主体的な取組となるよう、**練習課題を二者択一**できるようにした。

- 協調運動への意欲が継続するよう、方法を検討しながら行う。
- 練習課題を選択することにより、興味を高める。



運動セルフチェックシート

項目	達成度	満足度	意欲度
1. 目標達成	4	3	2
2. 継続性	4	3	2
3. 意欲度	4	3	2
4. 楽しさ	4	3	2
5. 集中力	4	3	2
6. 協調性	4	3	2
7. 自信	4	3	2
8. 達成感	4	3	2
9. 意欲	4	3	2
10. 満足	4	3	2

研究内容

評価

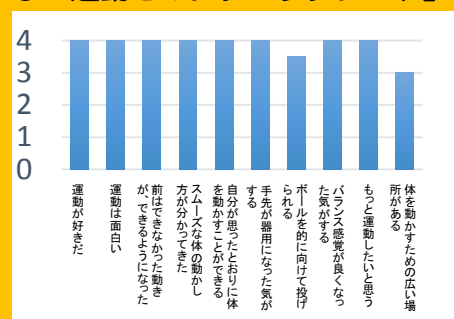
○ 指標課題

手先の器用さ		ボールスキル		バランス					
はさみ	直線	A	キャッチボール	2m 投げ	5/5	片足立ち	目開け	第1試行	17秒
	曲線	A		4m 受け	5/5			第2試行	35秒
	ギザギザ	A		5m 投げ	5/5		目閉じ	第1試行	18秒
	ぐるぐる	B		5m 受け	5/5			第2試行	20秒

○ 評価指標（はさみ）

項目	A	B	C	
姿勢	座る姿勢	足でしっかりと体を支え、背盤を立てて座っている。	長時間、足でしっかりと体を支え、背盤を立てて座っている。	背盤が後傾し、椅子に寄り掛かって座っている。
	腕の保持	腕を保持することができる。	腕を保持ができなくなり徐々に下がってくる。	腕を保持できず、肘や自分の身体で保持する。
動作	はさみの開閉	切る長さに応じて、開閉幅を調節できる。	ある程度切る長さに応じて、開閉幅を調節できる。	切る長さに応じて開閉幅を調整することが難しい。
	左手の動き	切る線に合わせて左手を上手に動かしている。	左手よりもはさみを持つ右手の方が動いている。	滑らかに動かせず、左手が対応していない。
結果	正確性	線に沿って正確に切ることができる。	おおむね線に沿って切ることができる。	線からずれてしまうことが多い。

○ 「運動セルフチェックシート」



<読み取れること>

- 運動に対しては、肯定的に捉えている。
- ボールを的に向かって投げることに苦手さを感じている。
- 運動のための広い場所を求めている。

経過

- 洗濯ばさみ
 - ・台紙を持つ手を滑らかに動かしながら取り組んでいた。
- 的入れ
 - ・距離を測って力加減を調整しながら投げていた。
- ケンケンパ
 - ・メトロノームのリズムに合わせて取り組み、速さに応じて動きを調整しようとしていた。

- 学級担任からの感想
 - 「ボール運動の苦手さは見られなくなってきた。」
- 研究対象者からの感想
 - 「練習を重ねることで上手になってきた感じがする。」

今後に向けて

- 2回目の指標課題及び「運動セルフチェックシート」を実施し、協調運動を高める支援と意欲を高める支援の前後を比較することにより、適切な支援の在り方について分析する。